

前回(第3回)研究会での議論(論点のまとめ)

◎ 学習費支出状況の変化を時系列で把握する本調査の役割に鑑み、子供の生活において変化が定着し、その支出を中長期的に把握すべきものに精選し、支出項目の見直しを行う。

\* デジタル化に対応した購入物品及びサービスの変化・高度化等は、調査各回における品目例示を不断に見直し更新することにより対応する。

◎ 支出項目の見直し候補は、以下の通り。

➤ 学校外活動費における外国語・国際交流活動の支出状況把握

(検討のポイント) ・把握対象となる物品・サービスの定義

・他のサービス等との区別(音楽・体操等と融合した習い事など)

➤ 学校教育費における修学旅行費と遠足・見学費の分離

(検討のポイント) ・修学旅行先(国内／海外)別での費用把握の必要性・可能性

➤ 学校外活動費における学童保育・預かり保育等の支出状況把握

(検討のポイント) ・「学習費」に学童保育等を定義する妥当性、把握対象となるサービスの定義

# 見直し検討① 学校外活動費における外国語・国際交流活動の支出状況把握

検討  
1

把握対象となる物品・サービスの定義

学校外での外国語・国際交流活動

## 自宅での学習

テレビ・動画等の視聴、図書・教材での学習、通信教育 など

## 自宅外での学習

英会話・英語教室、学習塾での外国語学習  
スピーチ・プレゼンテーション・ディベート大会等への参加  
イングリッシュキャンプ、国際交流体験活動への参加 など

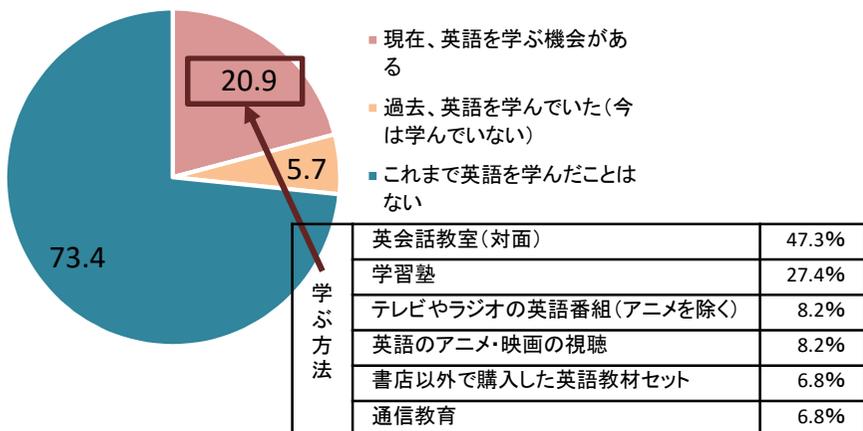
## 海外での学習

留学、ホームステイ など

幼稚園から全学校  
段階で支出

高等学校段階を  
中心に支出

幼稚園・保育園、小学校以外での英語学習状況  
(調査対象:3~6歳児及び小学生の子供を持つ親、単位:%)



(出典)株式会社バンダイ「お子さまの英語学習に関する意識調査」結果(平成29年3月)

教室学習活動—この1年間で、お子様が定期的に通っている塾・教室はありますか。(調査対象:3~18歳(高校3年生)の子供を持つ母親)

	幼児	小学生	中学生	高校生
英会話・英語教室	10.5%	15.0%	9.2%	4.6%

(出典)ベネッセ教育総合研究所「学校外教育活動に関する調査2017」(平成29年10月)

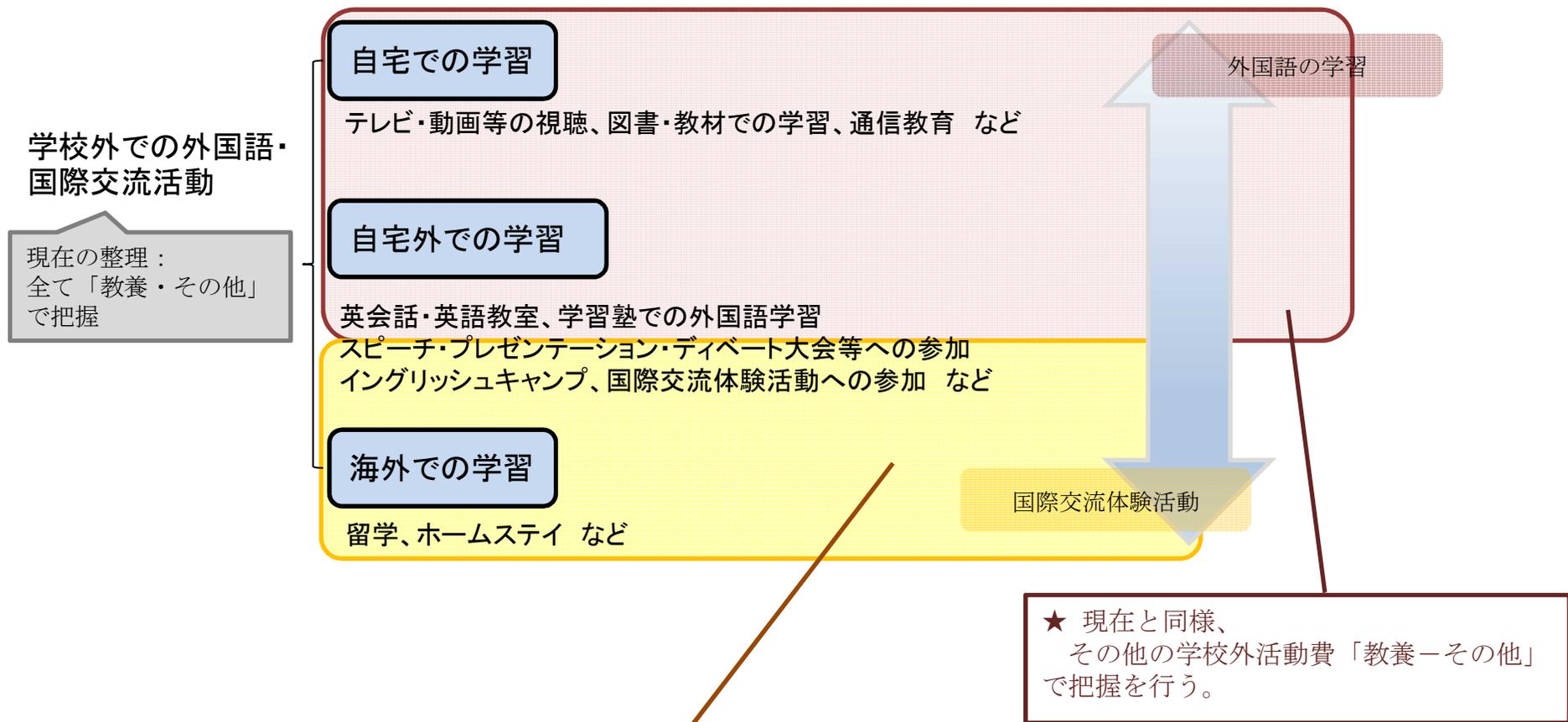
高校生になってから経験したことがあることは何ですか。  
(調査対象:公立の高等学校3年生)

イングリッシュキャンプ	1.4%	英語のスピーチ大会(校内予選等除く)	1.1%
英語のプレゼンテーション大会(校内予選等除く)	0.7%	英語のディベート大会(校内予選等除く)	0.4%
留学(2週間未満)	1.4%	留学(2週間以上3か月未満)	0.4%
留学(3か月以上)	0.1%	ホームステイ(現地の教育機関等で学習した場合を除く)	1.7%
当てはまるものがない	91.8%		

(注)「留学」はいずれも学校主催のプログラムを含む。

(出典)文部科学省「平成26年度 英語教育改善のための英語力調査事業報告書」(平成27年3月)

# 見直し検討① 学校外活動費における外国語・国際交流活動の支出状況把握



「国際交流体験活動」は、支出者割合は小さいことが予想されるが、1人当たりの支出額が大きく、集計において額が突出した回答データになり得る。

現在（その他の学校外活動費「教養－その他」で把握）の整理では、他の活動（習字、そろばん、外国語会話など）と混在して計上されているため、「国際交流体験活動」単体の支出状況把握が困難であるとともに、他の活動に係る支出状況の把握にも影響を与えている。

活動の内容は上図の通り、「外国語の活動」とは分離して定義することが可能である。

→★（案1）「国際交流体験活動」を、その他の学校外活動費における単独の項目として新規設置する

（案2）「国際交流体験活動」を、その他の学校外活動費における「体験活動・地域活動」に組み入れる

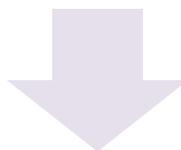
## 見直し検討① 学校外活動費における外国語・国際交流活動の支出状況把握

### 検討 2

#### 他のサービス等との区別

外国語・国際交流活動のサービス等では、他の分野と融合的な内容を持つものがある

(例)	体験活動・地域活動	芸術・文化活動	スポーツ・レクリエーション活動
外国語・国際交流活動を伴うサービス等 ▶	* 留学生との交流野外キャンプ * 海外ボランティア	* 英語劇のワークショップ * 外国語で学ぶピアノ教室	* 英会話スポーツ教室 * 外国とのスポーツ交流イベント



※ 複数分野の融合的なサービス等は、外国語・国際交流活動以外でも既に存在する。  
(例) ・リトミック ・スポーツボランティア ・自然体験型の科学教室 など

- ★ 原則として、融合的な内容に係る支出をどの項目に計上すべきかの判断は、回答者（保護者）が行う
  - 回答者（保護者）が、当該支出において最も重視する目的・期待する効果に基づいて整理・計上する（支出のあん分（例えば融合的な習い事の月謝を「外国語」と「スポーツ」で半分ずつ計上する等）を促すことは行わない）
  - （回答者（保護者）の判断に資するため、手引等における各項目の品目例示を充実させる必要がある）
- ★ 外国語・国際交流活動のサービス等では、他の分野と融合的な内容を含むものが多いことが考えられるため、支出項目を独立又は明確化させることにより、回答者（保護者）の判断を容易にすることが可能

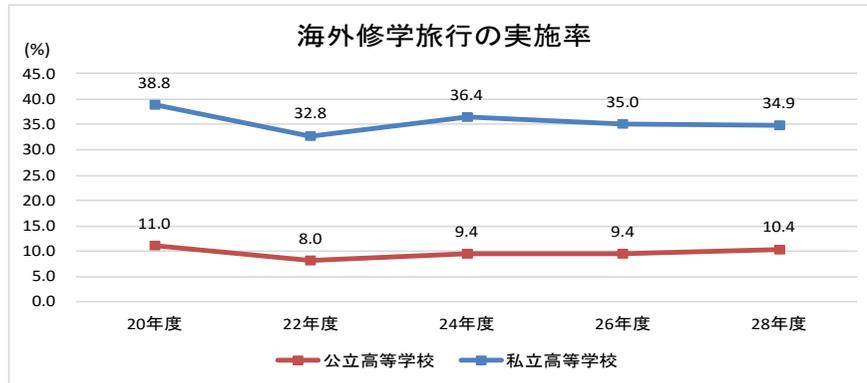
#### 【見直し案】

学校外活動費—その他の学校外活動費に項目「国際交流体験活動」を新設する

## 見直し検討② 学校教育費における修学旅行費と遠足・見学費の分離

### 検討

#### 修学旅行先(国内／海外)別での費用把握の必要性・可能性



(出典)公益財団法人全国修学旅行研究協会「平成28(2016)年度全国公私立高等学校海外修学旅行・海外研修(修学旅行外)実施状況調査報告」

＊ 海外修学旅行の実施率は、近年において大きな変化がない  
 ＊ 費用について、各教育委員会において修学旅行実施基準等を定めており、旅行費用の目安・上限等を置くところが多い

→ 修学旅行先(国内／海外)別の実施状況は、他の調査等において把握されている。本調査において「国内」「海外」別に費用を調査した場合でも、他調査によって把握可能な割合に基づく支出率が結果として導出されると予想され、本調査によって有意で新たな分析可能性を生み出すとは考えづらい。

#### 現行学習指導要領解説(特別活動)における 学校段階別の遠足／旅行・集団宿泊的行事の例示

小学校	遠足・集団宿泊的行事	遠足, 修学旅行, 野外活動, 集団宿泊活動などが考えられる。
中学校	旅行・集団宿泊的行事	遠足, 修学旅行, 移動教室, 集団宿泊, 野外活動などが考えられる。
高等学校	旅行・集団宿泊的行事	遠足, 修学旅行, 移動教室, 集団宿泊, 野外活動などが考えられる。

＊ 現在の本調査「修学旅行・遠足・見学費」では、これらの全てが含まれている(左表以外に各教科における「見学」など)  
 ＊ 修学旅行(おおむね特定の学年における1回の実施)とその他の校外活動(実施時期・回数・場所等は様々であるが、支出額は修学旅行よりおおむね小規模)とでは、活動の形態や支出状況が大きく異なっており、調査回答者にとっても項目を分けて回答することは大きな負担増とはならないと考えられる。

#### 【見直し案】

学校教育費—修学旅行・遠足・見学費を、以下の2つに分割する。

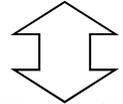
- ① 学校教育費—修学旅行費
- ② 学校教育費—校外活動費 (②には修学旅行を含まないことを手引きの例示・解説等で説明)

# 見直し検討③ 学校外活動費における学童保育・預かり保育等の支出状況把握

## 検討 「学習費」に学童保育等を定義する妥当性、把握対象となるサービスの定義

「学習費」

・・・活動主体は子供であり、学校外活動費の支出項目は子供の学習活動形態別に区分されている



学童保育・預かり保育等は、保護者のニーズ(就労、介護、出産、疾病等)に基づいておおむね行われている

- 補助学習費
- その他
  - 体験活動・地域活動
  - 芸術文化活動
  - スポーツ・レクリエーション活動
  - 教養・その他
  - (国際交流体験活動)

→ 単に支出項目「学童保育・預かり保育等」などを設けた場合、他の支出項目(子供の学習活動形態別)と区分の基準が整合しない

預かり保育・学童保育等は、単に「預かる」目的に限らず、活動主体の子供にとっては多様な活動の場となっている

活動内容	自由遊び、宿題、自主学習、集団遊び、調理体験、スポーツ、芸術文化活動、自然体験活動、外国語・国際交流活動 など...
------	--

「保育サービス」+他の分野との融合的な内容の場合、支出をどの項目に計上すべきか？

→ 単に支出項目「学童保育・預かり保育等」などを設けた場合、活動内容に応じ融合的なものになる可能性が高く、回答者(保護者)の判断が難しくなる

以上から、「学童保育・預かり保育等」を支出項目として設けることは、困難ではないか。

# 見直し検討③ 学校外活動費における学童保育・預かり保育等の支出状況把握

## 代案検討

- \* 本体の調査(支出項目ごとの記入)とは別途、子供の預かりサービス等に支出した年間費用を調査する。  
(設問等のイメージは下の通り。現行の「世帯の年間収入」と同様、保護者調査票(第3回)での回答を想定)
- \* 集計においても本体とは別に扱い、統計表には<別掲>として掲載する。

	費、パソコン(補助学習のために購入したものを除く)などの経費	③その他 物品費、入場料など					
合		計					
世帯の年間収入		1	2	3	4		
		200万円未満	200万円～ 399万円	400万円～ 599万円	600万円～ 799万円		
●世帯全体の1年間(平成30(2018)年1月～12月)の収入(税込み)について、右の選択肢1～7から当てはまる番号を、回答欄に数字でご記入ください。		5	6	7	回答		
		800万円～ 999万円	1,000万円～ 1,199万円	1,200万円 以上	<div style="border: 2px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto;"></div>		
子供の預かり サービス等に要した年間費用							
●調査対象のお子さんが利用した預かりサービス等(預かり保育、放課後児童クラブ、学童保育など)について、年間に支出した費用を、回答欄にご記入ください。		百万	十万	万	千	百	十
		円					
ご記入ありがとうございました。							